

株式会社守山製作所

【生産管理システム】手書き・手入力が必要だった作業をシステム化！人的ミスや工数の削減を実現

株式会社守山製作所 概要・実証計画【1/2】

企業概要

企業名	株式会社守山製作所	
所在地	愛知県尾張旭市	
代表者	伊藤公一	
資本金	2,400万円	
従業員数	40人	
事業内容	自動車部品（金属加工品等）メーカー	

1962年創業の自動車部品製造メーカー

■ 経営理念

1. お客様から信頼され、選ばれる企業を目指す
2. 技術と創意でより良い製品をより早く提供
3. 個人の熱意とチームワークで活力ある職場づくり
4. 安全と環境に配慮したものづくりの実践
5. 社員と家族が幸せを感じ誇りの持てる会社を目指す

■ 行動指針

1. お客様第一
2. 自ら考え主体的に行動
3. 現地・現物・現実に基づき判断
4. 早く着手、速く実行
5. P D C Aの確実な実施とプロセス改善



デジタル化推進の背景

- 現場における品質記録や生産日報などを手書きで行った上に、エクセルに転記しなおすという無駄な作業が多く、困っていた。
- 手書き資料をエクセルに転記したがミスが多く、業務が非効率だった。
- 人材を募集してもベッタウンであることや製造業であることが災いして、採用活動で苦戦していた。
- 標準化が図られず、生産管理業務が属人化して、後継の育成に苦戦していた。
- 業務が煩雑で、残業が頻発していた。

実証体制



- システム部門を設置できるほどの企業規模ではないことから、経営者や実務者自ら手を動かして活動することとした。
- 意思決定がスムーズに行えるように全体統括は社長とした。

生産管理クラウドシステム「スマートF」を導入し、生産管理、製造部門のデジタル化をスタート

株式会社守山製作所 概要・実証計画【2/2】

最終的にデジタル化で達成したいこと

デジタル活用による全社的な業務効率化

デジタルデータ化することで、生産管理部門だけでなく、製造部門をはじめとした全従業員が業務改善しやすい環境を整える。

今回実証で実施したいこと

- 生産を行うために必要な生産指示書を毎日、毎製品異なる工程納期情報を手計算したうえ、Excelに手入力し印刷をしていたものを全ての情報を自動的に更新できる仕組みに変更する。
- 現地に行って確認をしなければならなかった工程進捗を、パソコンの画面上で確認できるようにする。

目標とする成果

- 専用アプリを利用し、生産計画とマスターデータにより専用フォーマットへ入力～印刷までを一貫して自動で行える体制を整える。
- 各工程管理は、生産指示書に付属の工程毎QRコードをハンディターミナルで読み込ませることで、タイムリーに進捗状況が見えることから現場まで行く工数を削減する。

実証で利用するツール

導入ツール	SmartF（株式会社ネクスタ）	
導入費用	初期費用：30万円～ 月額費用：4.8万円～ ※2025年1月末日現在	
ツールの説明	<ul style="list-style-type: none">▶ 低コストでライトに始める生産管理クラウドシステム▶ 多様な機能（在庫管理、工程管理、生産計画、受注管理、発注管理等10種類）と幅広い連携対応が可能▶ 機能や部門など部分導入が可能▶ 専任担当によるサポートで導入をスムーズに実現	

■ 在庫管理や工程管理など、必要な機能からスモールスタート

- ・必要最低限の機能から、低コスト＆低リスクに導入
- ・スモールスタート成功後に他機能を追加すれば、生産現場の一元管理も実現

■ 導入コンサルつきのトライアル可能、既存システムにも柔軟に連携

- ・導入前のトライアル可能
- ・現場を深く理解し改善してきたコンサルタントがヒアリング＆導入支援
- ・既存システムとの連携設定もサポート（基幹システム、会計システム、秤連携など）

■ バーコード管理タブレット活用でペーパーレスIoTを実現

- ・ハンディ端末やタブレット端末を利用したバーコード管理が可能
- ・製造現場の状況をデータ化・見える化し、生産性向上・改善に活かせる

ハンディ端末を活用することで、手書きから脱却し、デジタルデータとして情報を取得

株式会社守山製作所 実証実施結果【1/3】

解決を目指した具体的な課題

工程進捗管理に多大な工数が発生

- これまで生産現場の進捗状況を確認するため、生産品目ごとに生産指示書を現場まで行って確認する必要があり、かなりの工数と時間をかけていた。

生産指示書の入力ミスが頻発

- 生産指示書の作成段階において、情報の入力漏れや入力ミスといった人為的エラーが頻繁に発生。紙に一つ一つ情報を確認しながら書いており、繁忙期などにはエラーがしばしば起こっていた。

生産ロット管理が煩雑で対応に遅れ

- 作業の履歴情報やロットの管理、製品の検査のレポートなどは専用の用紙に手書きで行っていた。不具合が起きた場合は多くの用紙から情報を発見する必要があり、非効率だった。

課題解決に向けた具体的な取組内容

工程進捗がリアルタイムに見える化

- 各工程毎にハンディ端末で作業実績の記録を行い、PCで工程進捗や工数集計が確認可能となり、リアルタイムに情報収集が可能になった。

生産指示書発行の精度とスピードアップ

- 生産指示書に必要な情報は全てマスターデータに記録されており、キーコードを利用することで、瞬時に必要情報を表示・印刷することができるようになり、精度と効率が向上した。

製品情報取得がスピーディに

- ロット管理を紙で行っており電子情報としてデータベースに残せておらず、ツール導入後は電子データベース上で管理するので、目当ての情報、履歴の検索が非常にスピーディーになる。

手入力の排除、リアルタイムデータの取得で、およそ月20時間の工数削減を実現

株式会社守山製作所 実証実施結果【2/3】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

【実証時に感じた壁】

初めてのツール利用に伴う操作方法の習得

- 製品ごとのマスターデータ作成に思いの外時間を要した。
- 従業員にデジタルデータを扱わせる機会がなかったことから操作方法を習得させるのに時間を要した。

【克服のためのアクション】

- 本サービスを利用するにあたり、操作方法やマスターデータの作成方法など、システム提供会社からサポートを月に10時間程度提供いただき、運用開始にこぎつけた。

取組に要した工数

全体統括	社長	製造部長からの報告に2時間/月
実証統括	製造部長	実証担当者との打合せ3時間/月
実証担当	生産管理係長	デジタルデータの取得、改善案の検討実行に8時間/月

取組の成果

手入力による集計作業がほぼ0に

- 各現場作業員の作業日報がバーコードで簡単に入力できるようになった事で、事務所での集計作業が一切なくなった。
(10時間/月の削減)

細心の進捗状況が手元で確認できる

- 作業進捗がリアルタイムで見えるようになり、急ぎの案件の際の現場への都度確認がなくなった上、最新の進捗状況に応じて作業を調整したり、最適な生産計画を臨機応変に作成できるようになった。
(10時間/月の削減)

成果のリアルタイムでフィードバックで、作業員の課題意識が向上 今後は、改善風土の醸成を目指す

株式会社守山製作所 実証実施結果【3/3】

今後の課題・目標

(デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

改善活動の風土醸成

- 現場の作業員が意識的に取組みを推進していくことが重要。
- タブレットを現場に配置したり、改善風土の醸成を目指す。
- 現場作業員の課題に対する意識が向上し、改善の機会を自発的に見つけることで、社内全体の改善活動を推進させる。

生産工程で行き来している紙はアナログの象徴のようなものでどうにかしたいという思いが強かったのですが、容易くデジタル化できるものでもなく全くの未着手でした。「スマートF」で紙運用を無くすことができたのはとても大きな成果です。

皆にとっては、自分の作業の出来栄えに対するフィードバックがリアルタイムで確認できるので、業務の改善スピードもあがり、成長につながっています。

皆が成長していく姿を見ていると、「スマートF」はひとつひとつの作業に対する当事者意識を醸成してくれていると感じます。

何よりもシステムを導入して仕組みを変える事で、人も組織も変わっていくのだと強く感じています。